

# 法梅蓮の教学試験発心教材①／観心本尊抄（大意・題号）問題

（青年部教学試験1級 対応版）

本抄について、あとの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 本抄が執筆された意義を、執筆当時の背景をふまえて答えなさい。

問二 本抄の執筆の前年に執筆された「開目抄」の意義を答えなさい。

問三 本抄は、四つの大段から構成されています。それぞれの大段の大意を答えなさい。

大段第一

大段第二

大段第三

大段第四

問四 本抄の題号の読み下し方を答えなさい。

問五 題号に具足されている四義に配し、その理由を具体的に答えなさい。

時　　理由　　理由

応　　理由　　理由

機　　理由　　理由

法　　理由　　理由

問六 題号の元意を答えなさい。

問七 本抄の題号を「觀心の本尊」と、「の」の字を入れて読む理由を答えなさい。

# 法梅蓮の教学試験発心教材②／観心本尊抄（第1～4章）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「摩可止觀第五に……縁了を眞足す』等云々」(238<sup>ジ一</sup>行目～239<sup>ジ一</sup>18行目)の御文について、あとの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「開合の異なり」(238<sup>ジ一</sup>1行目)について、具体的に説明しなさい。

問二 「三種の世間」(238<sup>ジ一</sup>4行目)を説明しなさい。

問三 「止觀の正しく觀法を明かすに至つて並びに三千を以て指南と為す」(238<sup>ジ一</sup>18行目)に関して、「開目抄」にどのようにお示しになられているかを答えなさい。

問四 「說己心中所行法門」(239<sup>ジ一</sup>1行目)の読み下し方を答えなさい。

問五 前問の文の「法門」を、具体的に説明しなさい。

問六 「草木に心有つて有情の如く成仏を為す可きや如何」(239<sup>ジ一</sup>9行目)の問い合わせに対する答えを、具体的に説明しなさい。

問七 「此の事難信難解なり」(239<sup>ジ一</sup>9行目)について、法師品第十に説かれてる『難信難解』を答えなさい。

問八 「教門の難信難解」(239<sup>ジ一</sup>10行目)についての理由を、具体的に答えなさい。

問九 「觀門の難信難解」(239<sup>ジ一</sup>10行目)についての理由を、具体的に答えなさい。

問十 「仮性」(239<sup>ジ一</sup>18行目)について、具体的に説明しなさい。また、この「仮性」について「妙法尼御前御返事」にどのようにお示しにされているかを答えなさい。

# 法梅蓮の教学試験発心教材③／観心本尊抄（第5～10章）問題

／青年部教学試験1級 対応版／

「問うて曰く出處……之を信ず可きなり」(240<sup>タメ</sup>1行目～242<sup>タメ</sup>13行目)の御文について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「我が『心を覗じて十法界を見たる是を観心と云うなり』(240<sup>タメ</sup>1行目)について、「三世諸仏總勘文教相廢立」(總勘文抄)ではどのように仰せにならっているかを答えなさい。

問二 天台家の觀心と末法の觀心の勝劣について、「治病大小權夷違目」(治病抄)ではどのように仰せにならっているかを答えなさい。

問三 「自面の六根を見ざれば」(240<sup>タメ</sup>2行目)の『眼根』について、「御義口伝」ではいくつか仰せにならっています。  
そのうちの1つを答えなさい。

問四 「明鏡を見ざれば」(240<sup>タメ</sup>2行目)について、「御義口伝」ではどのように仰せにならっているかを答えなさい。

問五 「衆生をして仮知見を・或説『身或説他身』」(240<sup>タメ</sup>5～16行目)において、引用されている12の經文は『總別の一義』に分けられます。  
『別の義』が始まる經文の最初の五字を答えなさい。(ただし、かぎカツコはのぞく)


問六 「隨自意」(241<sup>タメ</sup>2行目)について、「諸經と法華經と難易の事」ではどのように仰せにならっているかを答えなさい。


問七 「自面も亦復是くの如し如何が信心を立てんや」(241<sup>タメ</sup>6行目)について、「上野殿後家尼御返事」ではどのように仰せにならっているかを答えなさい。


問八 「唯一大事因縁の經文」(242<sup>タメ</sup>2行目)について、この經文を答えなさい。


問九 前問の「一大事因縁」について、「御義口伝」ではどのように仰せにならっているかを答えなさい。


問十 「不輕菩薩は所見の人に於て仮身を見る」(242<sup>タメ</sup>12行目)が説かれている「常不輕菩薩品第二十」の經文を答えなさい。


# 法梅蓮の教学試験発心教材④／観心本尊抄（第11～13章）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「問うて曰く教主釋尊は……所あらんや『等五五』（242<sup>タメ</sup>14行目～244<sup>タメ</sup>17行目）の御文について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「此れより堅固に之を秘す」（242<sup>タメ</sup>14行目）について、具体的に答えなさい。

問二 「三惑」（242<sup>タメ</sup>14行目）について説明しなさい。

問三 「行の時は…得脱せしむ」（242<sup>タメ</sup>15行目～16行目）について、「千日尼御返事」ではどのように仰せになられているか答えなさい。

問四 「是くの如き仏陀何を…住せしめんや」（242<sup>タメ</sup>16行目）について、本抄の後段ではどのように仰せになられているか答えなさい。

問五 「是くの如き因位の…功德か」（243<sup>タメ</sup>1行目）と「其の外十方…己身の三千か」（243<sup>タメ</sup>8行目～9行目）を、具体的に答えなさい。

問六 「四天」（243<sup>タメ</sup>9行目）について、説明しなさい。

問七 「染無きこと虚空の如し」（243<sup>タメ</sup>11行目～12行目）について、「当体義抄」ではどのように反論しておられているかを答えなさい。

問八 「断諸法中悪」（243<sup>タメ</sup>18行目～244<sup>タメ</sup>13行目）に対して、どのように反論しておられているかを答えなさい。

問九 「諸經と法華との相違は…之を顕わす」（244<sup>タメ</sup>7行目～8行目）において、それぞれの四義について爾前經と法華經との根本的な相違を説明しなさい。

未顯と已顯＝

証明と舌相＝

二乗の成不＝

始成と久成＝

# 法梅蓮の教学試験発心教材⑤／観心本尊抄（第14・15章）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「但し会し難き所は……本尊は有名無実なり」(244<sup>ジ一</sup>18行目～246<sup>ジ一</sup>9行目)の御文について、あとの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「上の教主釈尊等の大難なり」(244<sup>ジ一</sup>18行目)について、この「大難」を具体的に説明しなさい。

問二 「已今当説」(244<sup>ジ一</sup>18行目)は、法華經法師品第十の文(法華經362<sup>ジ一</sup>)であるが、これを具体的に説明しなさい。

已説  
今説  
当説

問三 「三国に経歴して但三人のみ有つて始めて此の正法を覺知せり」(245<sup>ジ一</sup>3行目～4行目)について、「三国」の「三人」を具体的に答えなさい。

問四 「初の大難」(245<sup>ジ一</sup>9行目)について、この「大難」を具体的に説明しなさい。

問五 「譬えば国王と夫人と新たに王子を生ぜん」(245<sup>ジ一</sup>9行目)の「国王」「夫人」「王子」は、それぞれ何をたとえたものか具体的に答えなさい。  
国王  
夫人  
王子

問六 「譬えば国王と…以ての故なり」(245<sup>ジ一</sup>9行目～16行目)の経文は、どんなことを説いているか答えなさい。

問七 「此の大乗經典は…断ぜられ」(245<sup>ジ一</sup>16行目～246<sup>ジ一</sup>1行目)の経文は、どんなことを説いているか答えなさい。

問八 「此の方等經は…福田なり」(245<sup>ジ一</sup>17行目～246<sup>ジ一</sup>1行目)の経文は、どんなことを説いているか答えなさい。

問九 「三種の身」(245<sup>ジ一</sup>18行目)について、説明しなさい。

問十 「夫れ以れば…本有の三因之れ無し」(246<sup>ジ一</sup>2行目～6行目)は、何をお示しにならされているか説明しなさい。

# 法梅蓮の教学試験発心教材⑥／觀心本尊抄（第16章）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「問うて曰く上の……一身一念法界に遍し』等[五三]（246<sup>六</sup>~10行目~247<sup>六</sup>~8行目）の御文について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「未だ六波羅蜜を修行する事を得ずと雖も六波羅蜜自然に在前す」（246<sup>六</sup>~11行目）の経文は、どんなことを説いているかを答えなさい。

問二 「具足の道を聞かんと欲す」（246<sup>六</sup>~12行目）の経文は、どんなことを説いているかを答えなさい。

問三 「釈尊の因行果徳の……功德を譲り与え給う」（246<sup>六</sup>~15行目）は何についての御文かを具体的に答えなさい。

また、この御文は四種の力用を表しています。この御文を四種の力用に配しなさい。

信力  
行力  
法力  
仮力

問四 「無上宝聚・不求自得」（246<sup>六</sup>~16行目）の経文は、どんなことを説いているかを答えなさい。

問五 「我が如く等くして……皆仏道に入らしむ」（246<sup>六</sup>~17行目）の経文の元意として、日寛上人はどのように述べているかを答えなさい。  
また、この経文は何を示しているかを答えなさい。

問六 「釈迦・多宝・十方の……受得す」（247<sup>六</sup>~2行目）の経文について、日寛上人はどのように解釈しているかを答えなさい。

また、この経文は何を示しているかを答えなさい。

問七 「我等が己心の釈尊は……無始の古仏なり」（247<sup>六</sup>~4行目）は、どのようなことを仰せになられているかを答えなさい。

問八 「我等が己心の菩薩等なり、……我等が己心の菩薩なり」（247<sup>六</sup>~5行目）は、何を示しているかを答えなさい。

問九 「成道の時此の本理に称うて一身一念法界に遍し」（247<sup>六</sup>~8行目）を、末法の凡夫の実践に即して答えなさい。

# 法華蓮の教学試験発心教材⑦／觀心本尊抄（第17～20章）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「夫れ始め……之を聞かん」(247~9行目～248~6行目)の御文について、あとの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「成劫」(247~9行目)は、「四劫」の一つです。この「四劫」を説明しなさい。

問二 「方便・実報・寂光」(247~10行目)について、「總勸文抄」ではどのように仰せになられているかを答えなさい。

問三 「今本時の…同体なり」(247~12行目～13行目)は、何をお示しになられたものかを答えなさい。

問四 前問の御文に関連して、法華經寿量品第十六ではどのように説いているかを答えなさい。

問五 「此の本門の肝心」(247~16行目)について、該当する経文を順にすべて答えなさい。

問六 「八品を説いて」(247~16行目)について、該当する経文を順にすべて答えなさい。

問七 「其の本尊」(247~16行目)について、具体的に答えなさい。

問八 「其の本尊の為体」(247~16行目)について、「御義口伝」ではどのように仰せになされているかを答えなさい。

問九 「本師の娑婆の…表する故なり」(247~16行目～248~1行目)について、具体的に答えなさい。

問十 「此の仏像」(248~1行目)について、具体的に答えなさい。

# 法華蓮の教学試験発心教材⑧／觀心本尊抄（第21～23章）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「答えて曰く……難信難解・隨自意なり」(248<sup>六</sup>7行目～249<sup>六</sup>4行目)の御文について、あとの問いに簡潔に答えなさい。

問一 「序分」(248<sup>六</sup>8行目)・「正宗」(248<sup>六</sup>8行目)・「流通分」(248<sup>六</sup>8行目)を、それぞれ説明しなさい。

序分＝

正宗(分)＝

流通分＝

問二 「寂滅道場より・流通分なり」(248<sup>六</sup>8行目～9行目)について、この三段は何と呼ぶかを概要も含めて答えなさい。

問三 「正宗十巻の・・流通分なり」(248<sup>六</sup>9行目～11行目)について、何と呼ぶかを概要も含めて答えなさい。

問四 「方便品より・・正宗分なり」(248<sup>六</sup>9行目～10行目)について、この正宗分で根本となる二つの教説を答えなさい。

問五 「又法華經等の・・四味の者の如し」(248<sup>六</sup>12行目～18行目)について、何と呼ぶかを概要も含めて答えなさい。

問六 「又法華經等の・・四味の者の如し」(248<sup>六</sup>12行目～18行目)について、何と呼ぶかを概要も含めて答えなさい。

問七 「本無今有の百界千如を説いて」(248<sup>六</sup>14行目)について、「開目抄」ではどのように仰せになられているかを答えなさい。

問八 「又本門十四品の・・隨自意なり」(249<sup>六</sup>1行目～4行目)について、何と呼ぶかを概要も含めて答えなさい。

問九 「寿量品と前後の二半」(249<sup>六</sup>1行目)について、具体的に説明しなさい。

問十 「所説の法門も・・竹膜を隔つ」(249<sup>六</sup>2行目～3行目)について、具体的に説明しなさい。

## 法梅蓮の

# 教学試験発心教材⑨／観心本尊抄（第24・25章）問題

〈青年部 教学試験1級 対応版〉

「又本門に於て……但題目の五字なり」(249<sup>べ</sup>5行目～17行目)の御文について、あとの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「又本門に於て……序分なり」(249<sup>べ</sup>5行目～6行目)について、具体的に説明しなさい。

問二 「一品二半」(249<sup>べ</sup>6行目)について、天台と日蓮大聖人の配立はそれぞれ何と呼ぶかを概要も含めて答えなさい。

天台

大聖人

問三 「種熟脱」(249<sup>べ</sup>9行目)について、それぞれ説明しなさい。

種  
熟  
脱

問四 「述門十四品の……但題目の五字なり」(249<sup>べ</sup>10行目～17行目)について、具体的に説明しなさい。

問五 興尊の一代聖教および三世十方の諸仏の經々が、問一の序分と流通分に配されるが、その違いを説明しなさい。

問六 「在世の本門」(249<sup>べ</sup>17行目)について、具体的に答へなさい。

問七 「一往之を……登らしむ」(249<sup>べ</sup>15行目)について、具体的に説明しなさい。

問八 「在世の本門と末法の始は……五字なり」(249<sup>べ</sup>17行目)は、三点にわたり対比して種脱相対を明かしています。このうち、「在世の本門」と「末法の始」の相違を述べられている一点を答へなさい。

問九 右の表を完成させなさい。

再往別の三段			一往総の三段			五重三段		
文底下種三段	本門脱益三段	迹門熟益三段	法華十卷三段	一代一經三段	序 分	正宗 分	流通 分	

# 法梅蓮の教学試験発心教材⑩／觀心本尊抄（第26～28章）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「問うて曰く其の証文如何、……・捨拾遺囑是なり」(249<sup>タメ</sup>18行目～252<sup>タメ</sup>17行目)の御文について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「前三後三の六願」(250<sup>タメ</sup>8行目)を説明しなさい。また、これについて大聖人が挙げられている要点二点を答えなさい。

前三義①＝

前三義②＝

前三義③＝

後三義①＝

後三義②＝

後三義③＝

①＝

②＝

問二 「我等は復た・・・疑を生ぜじ」(250<sup>タメ</sup>14行目～17行目)について、具体的に説明しなさい。

問三 「心を失わざる者は・・・病尽く除癒ぬ」(250<sup>タメ</sup>18行目～251<sup>タメ</sup>1行目)について、具体的に説明しなさい。

問四 「余の心を・・・薬を服せしむべし」(251<sup>タメ</sup>2行目～4行目)について、具体的に説明しなさい。

問五 「遣使還告」(251<sup>タメ</sup>5行目)と「是好良薬」(251<sup>タメ</sup>4行目)について、それぞれ具体的に説明しなさい。  
遣使還告＝  
是好良薬＝

問六 「名体宗用教」(251<sup>タメ</sup>10行目)を、説明しなさい。

問七 「夫れ文殊師利菩薩は・・・足らざる者か」(251<sup>タメ</sup>14行目～17行目)について、具体的に説明しなさい。

問八 「要を以て之を・・・宣示顯説す」(252<sup>タメ</sup>5行目～9行目)を、それぞれ問五の「名体宗用教」に配しなさい。

名  
宗  
教＝

用  
体＝

問九 前問の経文を、それぞれ「三大秘法」に配しなさい。

本門の戒壇＝

本門の本尊＝

問十 「結要付囑・「総付囑・「捨拾遺囑」について、それぞれ説明しなさい。

結要付囑＝  
総付囑＝  
捨拾付囑＝

# 法梅蓮の教学試験発心教材(11)／観心本尊抄（第29・30章）問題

＜青年部教学試験1級対応版＞

「疑つて云く……世法を得可きか」(252<sup>タメ</sup>18行目～254<sup>タメ</sup>17行目)の御文について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「疑つて……黙止せんのみ」(252<sup>タメ</sup>18行目～253<sup>タメ</sup>3行目)について、説明しなさい。

問二 「病者に於いて」(253<sup>タメ</sup>8行目)について、具体的に説明しなさい。

問三 「像法の中末に・義を尽せり」(253<sup>タメ</sup>11行目～13行目)について、具体的に説明しなさい。

問四 「像法の中末に・故なり」(253<sup>タメ</sup>11行目～14行目)について、「本因妙抄」ではどのように仰せにならえているかを答えなさい。

問五 「因謗隨惡必因得益」(253<sup>タメ</sup>17行目)について、具体的に説明しなさい。

問六 「末法の初に出で給わざる可きか」(254<sup>タメ</sup>1行目)について、具体的に説明しなさい。

問七 「此の四菩薩・弘持す」(254<sup>タメ</sup>1行目)の「折伏」・「摂受」について、それぞれ説明しなさい。

折伏を現ずる時＝

摂受を行ずる時＝

問八 「代を語れば・以有るなり」(254<sup>タメ</sup>6行目～7行目)について、説明しなさい。

問九 「月支震旦に・顕わさず」(254<sup>タメ</sup>9行目～12行目)について、説明しなさい。

問十 「此れを以て・先兆なるか」(254<sup>タメ</sup>14行目～15行目)について、説明しなさい。

# 法梅蓮の教学試験発心教材⑫／觀心本尊抄（第31章・送状）問題

〈青年部教学試験1級 対応版〉

「一念三千を……者なり」(254<sup>ペ</sup>18行目～255<sup>ペ</sup>1行目)及び、『送状』(255<sup>ペ</sup>)の御文について、あとの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「大慈悲」(254<sup>ペ</sup>18行目)について、元意をどのようにとらえることができるかを答えなさい。

問二 「五字の内に此の珠を裏み」(254<sup>ペ</sup>18行目)について、具体的に説明しなさい。

問三 「懸けさしめ給う」(254<sup>ペ</sup>18行目)について、どのように拝されるかを答えなさい。

問四 「四大菩薩」(254<sup>ペ</sup>18行目)について、具体的に説明しなさい。

問五 「此の人を守護し給わん」(255<sup>ペ</sup>1行目)について、説明しなさい。

問六 「一念三千を……者なり」(254<sup>ペ</sup>18行目～255<sup>ペ</sup>1行目)について、日寛上人はどのように述べられているかを答えなさい。

問七 『送状』の「此の事日蓮身に当る大事なり」について、具体的に説明しなさい。

問八 『送状』の「無二の志を……読む」と勿れについて、どのような大聖人のご配慮が伺えるかを答えなさい。

問九 『送状』の「之を演説す」について、具体的に説明しなさい。

# 法梅蓮の 教学試験発心教材⑬ / 兄弟抄

問題

〈青年部教学試験1級対応版〉

『兄弟抄』について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 本抄が執筆された背景を答えなさい。

問二 本抄の大意を答えなさい。

問三 「法華經と申すは…骨髓なり」(1079~1行目)について、説明しなさい。また、「秋元御書」ではどのようにお示しになられているかを答えなさい。

問四 「此の經を経のざとくにとく人に値うことは難にて候」(1080~16行目~17行目)について、説明しなさい。

問五 「此の世界は第六天の魔王の所領なり」(1081~15行目)について、説明しなさい。

問六 「元品の無明」(1081~6行目)について、「御義口伝」ではどのようにお示しになられているかを答えなさい。

問七 「各各隨分に…やけば眞金となる」(1083~11行目~12行目)について、具体的に説明しなさい。

法梅蓮の  
教学試験発心教材⑭／兄弟抄(二)問題題

＜青年部教学試験1級対応版＞

『兄弟抄』について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 「雪山童子の前に現ぜし羅刹は帝釈なり戸毘王のはとは毘沙門天ぞかし」(1083<sup>ペー</sup>13行目～14行目)について、説明しなさい。

問二 「一切は・をやに・・孝養の本にて候か」(1085<sup>ペー</sup>7行目～8行目)について、具体的に説明しなさい。

[Large rectangular answer box]

問三 「天台大師の摩訶止観」(1087<sup>ペー</sup>10行目)について、説明しなさい。

[Large rectangular answer box]

問四 「魔競はずは正法と知るべからず」(1087<sup>ペー</sup>16行目)について、どのような意味が含まれているかを答えなさい。

[Large rectangular answer box]

問五 「三障四魔」(1087<sup>ペー</sup>16行目)について、説明しなさい。

[Large rectangular answer box]

問六 「心の師とは・なるとも心を師とせざれ」(1088<sup>ペー</sup>15行目)について、具体的に説明しなさい。

[Large rectangular answer box]

問七 「只法華經のみさはくらせ給うべし」(1081<sup>ペー</sup>16行目)について、「御義口伝」ではどのようにお示しになられているかを答えなさい。

[Large rectangular answer box]

# 法華蓮の教学試験発心教材⑯／日顕宗を破す

（青年部教学試験1級対応版）

日顕宗について、あととの問い合わせに簡潔に答えなさい。

問一 仏法破壊の「法を壞ぶる者」を断罪し、呵責している「立正安國論」の御文を答えなさい。

問二 「法華經の敵」について、日蓮大聖人はどのように仰せになられているか、二つ答えなさい。

問三 私たちが、現在の日蓮正宗（以下、「宗門」と称す）を「日顕宗」と呼称する理由を答えなさい。

問四 仏法上の大罪である「五逆罪」をすべて答えなさい。

問五 「仏法西還」と「世界広宣流布」予言されている御文を、それぞれ答えなさい。

仏法西還

世界広宣流布

問六 戰時に宗門が犯した、謗法を三つ答えなさい。

①  
②  
③

問七 「第一次宗門事件」について答えなさい。

問八 「第二次宗門事件」について答えなさい。

問九 創価学会が全世界の会員に、御本尊を授与する正当性を示した御文を答えなさい。

問十 日興上人の根本精神は、どのような遺誠であるかを答えなさい。

# 法梅蓮の教学試験発心教材⑯／日顯宗を破す(二)問題

〈青年部教学試験1級対応版〉

日顯宗について、あととの問い合わせ簡潔に答えなさい。

問一 「法主が御本尊」、また「日蓮大聖人と一体不二の尊体」であるなどという邪義について、御書を以つて破折しなさい。

問二 「法主は絶対であるから法主に従え」いう「法主信仰」の邪義について、御書を以つて破折しなさい。

問三 法主が誤りを犯すこともありうることについて、御書ではどのようにご教示されているかを答えなさい。

問四 「血脉」について、①妙法を自らの當体として信受する信心、②絶対不退の信心の持続、③異体同心に広宣流布を目指す信心、以上の3点について大聖人はどのように仰せになられておられるかを答えなさい。

①=  
②=  
③=

問五 「三宝義」について、日顯宗はどのように主張しているかを答えなさい。

問六 平成2年12月、学友会宛てに送付された宗門総監名での公式文書「あたかも僧俗がまったく対等の立場にあるように言うのは、信徒としての節度・礼節をわきまえず、僧俗の秩序を失うものである」について、二つの御文を以つて破折しなさい。

問七 平成3年10月、学友会宛てに送付された宗門総監名での葬儀に関する「通告文」なる文書「僧侶を呼ばずに葬儀を行えば、即身成仏どころか必定墮地獄となります」について、二つの御文を以つて破折しなさい。

問八 日蓮大聖人と日興上人は、僧侶の在り方について、どのように仰せになられているか、三つ答えなさい。  
大聖人  
日興上人

問九 日蓮大聖人は仏法利用の悪侶について、どのように仰せになられているか、三つ答えなさい。

--	--	--



# 【参考資料】『四句の要法』～如來神力品第一十一

爾時仏告上行等菩薩大衆、  
於無量無辺百千万億阿僧祇劫、  
諸佛神力如是無量無辺、不可思議。  
若我以是神力、  
為囑累故、說此經功德、猶不能尽。  
以要言之、

若し我れは是の神力を以て、  
無量無辺百千万億阿僧祇劫に於いて、  
囑累の為めの故に、此の經の功德を説かんに、猶お尽くすこと能わじ。  
要を以て之れを言わば、

如來一切所有之法、  
如來一切自在神力、  
如來一切秘要之藏、  
如來一切甚深之事、  
皆於此經宣示顯説。

如來一切の有つ所の法、  
如來一切の自在の神力、  
如來一切の秘要の藏、  
如來の一切の甚深の事は、  
皆在此の經に於いて宣示顯説す。

是故汝等於如來滅後、  
應當一心受持・讀誦・解説・書寫、如說修行。  
所在國土、若有受持・讀誦・解説・書寫、  
如說宣示顯説、  
若經卷所住之處、  
如來園中、若於林中、若於樹下、  
若於僧坊、若白衣舍、若在殿堂、  
若山谷曠野、是中皆應起塔供養。  
所以者何、當知是處即是道場。

在る國土に、若し受持・讀誦・解説・書寫し、説の如く修行すべし。  
若しは園中に於いても、若しは林中に於いても、若しは樹の下に於いても、  
若しは僧坊に於いても、若しは白衣の舍に於いても、若しは殿堂に在つても、  
若しは山谷曠野に於いても、是の中に皆な應に塔を起て供養すべし。  
所以は何ん、當に知るべし、是の處は即ち是れ道場なり。  
諸仏は此に於いて阿耨多羅三藐三菩提を得、  
諸仏は此に於いて法輪を転じ、諸仏は此に於いて般涅槃したまう」と。

## 『四句の要法』

如來の一切の　如來(仏)が所有していいるすべての教法のこと。この句は五重玄義のうち名玄義、所有の法

三大秘法に配すると一大秘法(三大秘法總在の本尊)になる。

如來の一切の　如來(仏)の一切に通達して無礙の力用をいう。神力は神通力のことと、一般の人間には計り知ることのできない超人的で自由自在な能力をいう。仏・菩薩・阿羅漢・神仙人などが具えていたとされる。

自在の神力　この句は五重玄義のうち用玄義、三大秘法では本門の戒壇に配される。

如來の一切の　如來(仏)の秘めたる一切の要法の教え。仏が心に秘めた肝要の法門、奥義をいう。

秘要の藏

この藏は教えの意。法華經方便品第一に「當に知るべし是の妙法は、諸仏の秘要なり」(同145頁)とあり、法師品第十に「藥王よ。此の經は是れ諸仏の秘要の藏なり」(同362頁)とある。

この句は五重玄義のうち体玄義、三大秘法では本門の本尊に配される。

如來の一切の　如來(仏)のすべての甚だ深い事法。「事」とは仏因を修し仏界を証する実践法をいう。この句は五重玄義のうち宗玄義、三大秘法では本門の題目に配される。

如來の一切の　如來(仏)のすきりと宣べ示し、顯し説くこと。法華經如來神力品第二十一に説かれる。

四句の要法(結要付囑)の文の結語。この句は五重玄義のうち教玄義に配される。

宣示顯説

序品第一	一卷
方便品第二	
譬喻品第三	二卷
信解品第四	
藥草喻品第五	三卷
授記品第六	
化城喻品第七	
五百弟子受記品第八	
授學無學人記品第九	
法師品第十	四卷
見宝塔品第十一	
提婆達多品第十二	
勸持品第十三	
安樂行品第十四	
從地涌出品第十五	五卷
如來壽量品第十六	
分別功德品第十七	
隨喜功德品第十八	
法師功德品第十九	
常不輕菩薩品第二十	
如來神力品第二十一	七卷
囑累品第二十二	
藥王菩薩本事品第二十三	
妙音菩薩品第二十四	
觀世音菩薩普門品第二十五	
陀羅尼品第二十六	
妙莊嚴王本事品第二十七	
普賢菩薩勸發品第二十八	八卷

(前)靈鷲山会

虚空会

(後)靈鷲山会

# 法華經の構成・概要

序品…靈鷲山の会座に大衆が集まり、釈尊がさまざまな瑞相を現する。

方便品…説法開始。諸法実相・十如是の法理が示され、また一乗の教えを説くことが仏の出世の本懐であることが明かされる。

【諸法実相と二乗作仏】

譬喻品…法理を領解した舍利弗への授記。理解できない弟子のため、『三車火宅の譬え』※を用いて説法する。

信解品…四大声聞〈須菩提(しゅぼたい)・迦旃延(かせんねん)・迦葉・目連〉が領解した旨を『長者窮子(ぐうじ)の譬え』※として示す。

藥草品…四大声聞の領解を承認。『三草二木の譬え』※を用いて、仏の慈悲が平等であることを説く。

授記品…四大声聞への授記。

化城品…三千塵点劫という昔、大通智勝仏の16番目の王子〈釈尊の過去世の姿〉から化導されたのが在世の衆生であることが説かれる。『化城宝處の譬え』※。

受記品…富樓那(ふるな)への授記。さらに授記を得た五百人の弟子が歡喜して『衣裏珠(えりじゅ)の譬え』※を述べる。

人記品…阿難、羅睺羅(らごら)をはじめ、学〈学ぶべきことが残っている者〉・無学〈学ぶべきことが残っていない者〉二千人の弟子に授記。

法師品…法華經の弘通者〈法師〉、五種の妙行〈受持・読・誦・解説(げせつ)・書寫〉と弘通の方軌〈衣座室の三軌〉を明かす。

【猶多怨嫉・況滅度後】

宝塔品…宝塔が出現し、多宝如来が、釈尊の説法は真実であることを保証する〈多宝の証明〉。虚空会の説法の開始。

【六難九易】

提婆達多品…提婆達多への授記〈悪人成仏〉と竜女の即身成仏〈女人成仏〉が説かれる。

勸持品…菩薩による滅後弘通の誓い。「二十行の偈」で三類の強敵を示し、仏滅後の弘通者が必ず迫害を受けることを説く。

【三類の強敵】

安樂行品…初信の行者のために身・口・意・誓願の四安樂行という攝受の修行を示す。

『譬中明珠(けちゅうみよじゅ)の譬え』※。

※ 法華經七譬(しちひ)

涌出品…地涌の菩薩の出現。弥勒(みろく)菩薩の問いに対し、釈尊が、久遠の昔から教化してきた弟子であると説く。

【地涌の菩薩】

寿量品…“久遠五百塵点劫に成道(じょうどう)して以来、娑婆世界で衆生を教化してきた仏である”と釈尊の本地を明かす。『良医病子の譬え』※で説明。

【久遠実成】

分別功德品…法華經の功德について、在世の四信と滅後の五品があることを示す。

隨喜功德品…五十展転(てんでん)の功德を説いて、滅後に法華經を広めることを勧める。

法師功德品…滅後弘通の法師が六根清淨(しょうじょう)の功德を受けることを説いて、法華經の弘通を勧める。

不輕品…釈尊の過去世の姿である常不輕菩薩が万人を敬う礼拝行を実践して罪障消滅の功德を得たことを説く。

【不輕菩薩】

神力品…地涌の菩薩が滅後の弘通を誓った時、釈尊が十神力を示し、滅後の弘通を上行菩薩をはじめとする地涌の菩薩に託す〈別付嘱〉。

【地涌の菩薩】

嘱累品…全ての菩薩に付嘱(総付嘱)。十方の諸仏が本土に帰り、虚空会での説法が終了する。

薬王品…薬王菩薩の過去世を通して滅後弘通の功德を示し、十喻(じゅうゆ)を述べて法華經が諸經に対して第一であることを強調。釈尊滅後の広宣流布を予言する。

妙音品…妙音菩薩が三十四身を現じて妙法を弘通し、衆生を教化することを説く。

普門品…觀世音菩薩が三十三身を現じて衆生を教化することを示し、法華經の弘通を勧める。

陀羅尼品…薬王菩薩、勇施(ゆせ)菩薩、毘沙門天、持國天、十羅刹女が神呪を説き、法華經の行者の守護を仏に誓う。

妙莊嚴王品…妙莊嚴王を夫人と息子たちが正法に帰依させた話を通し、法華經弘通の功德を示す。

勸發品…普賢菩薩が法華經の行者と法を守護するとの誓願を立てる。法華經の説法が終了し、会座の大衆は歓喜して去る。